

令和8年7月31日

羽田空港の機能強化等に関する対応について
(要 望 書)

国土交通大臣

金 子 恭 之 様

大田区長

鈴 木 晶 雅

大田区議会議長

鈴 木 隆 之

羽田空港の機能強化等に関する対応について（要望）

大田区は、従来より羽田空港との共存共栄を図りながら、地域の活性化を目指しております。

羽田空港の機能強化として、令和２年３月より開始された新飛行経路に関しては、令和４年以降の航空需要の回復に伴い、南風運用時におけるＢ滑走路西向き離陸における地域への騒音が大きくなってきております。

貴省におかれましては、令和２年６月より「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」を開催するとともに、低騒音機の導入促進や滑走路末端からの離陸など、Ｂ滑走路西向き離陸における騒音対策も検討、実施いただいているところです。しかしながら、従来の滑走路運用も含め、羽田空港を離発着する航空機の低騒音機の割合は令和７年度の実績で約３７％と、低騒音機の導入が一定程度進んでいるものの、依然として高騒音機が約６割を占めている中、地域住民からは騒音に対する不安の声が多く寄せられている状況です。

さて、令和７年１２月の「第７回羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」では、「航空機の更なる騒音負担軽減策に関する国際動向調査」として様々な角度から騒音負担軽減について調査された結果が報告されており、海外の空港においては、着陸料により機材の低騒音化に対して、より大きなインセンティブを与えている空港もあると伺っております。

そのことに関し、令和８年１月３０日開催の「東京国際空港（羽田空港）移転騒音対策連合協議会」において、貴省より説明を受けた地域の代表者からは、羽田空港においても同様の着陸料金体系を導入すべきであるとの強い意見が出されており、区といたしましても、これを重く受け止めているところです。

このような経緯等も踏まえ、区民が安心して生活できるよう更なる騒音影響への対応が重要であることから、下記事項について要望いたします。

記

１ 騒音軽減に関する取組の推進について

「航空機の更なる騒音負担軽減策に関する国際動向調査」を踏まえ、機材の低騒音化を促進するため、航空機の騒音をより考慮した着陸料金体系への見直しや騒音低減装置の装着の推奨等、更なる方策を講じていただきたい。

２ 新経路の固定化回避に向けた検討について

新飛行経路の固定化回避については、安全確保を最優先としつつ、今後も継続的かつ徹底した調査と検討を行っていただきたい。

以上